

平成26年9月11日

## 教科大好きプロジェクト 第2回算数・数学実践講座 開催！

教科のおもしろさや優れた授業実践を管内の小中学校に広くひろめ、先生方の指導力向上とともに、管内の学力向上に資することを目的として取組を進める「教科大好きプロジェクト」。第2回の算数・数学実践講座を8月25日（月）に開催しました。

前回に引き続き、「子どもを主体者にする授業」をコンセプトとして、今回は、数学の専門家から御指導をいただきました。

今回の講師は、京都産業大学理学部 牛瀧 文宏 教授です。

前半の講義題は、「子どもが主体的に取り組む算数・数学の創造」。特に「小中連携」の視点を念頭にお話をいただきました。

いわゆる小中連携を考えると「中1ギャップ」が話題のほりますが、そうした「ギャップ」は、いろんなところで「あるもの」と考え、むしろそれを前提として、その「ギャップ」に立ち向かい、乗り越える力を「教科連携」の中で実現してほしいとの提起をいただきました。

また、「学校種だけではなく、

教科や学年をつなぐことも大切」とのお話もありました。特にポイントは、「小学校2年生」であるとのことでした。

「小2」は、算数の授業時数が格段に増えるときであるとともに、2年生での学びには、義務教育9年間を支える内容がつまっているとのことでした。

算数・数学において「小2」を一つのポイントとしてみる見方は、大変新鮮で参加の先生方も考えを新たにしたところでした。

後半の演習では、小中の先生方が混ざった編成のグループで、牛瀧教授から提起された8つのテーマについて自由に選択し、その対応を検討し、発表・交流しました。

例えば「小3『10をかけるかけ算』における授業のまとめ方」を検討したグループでは、校種を越えて互いに学び合う姿が印象的でした。「こういう場合は、中学校では、こうですが、小学校では、どうですか。」「小学校では、こう考え、指導しています。」「なるほど。」…。

若手もベテランもそれぞれの

経験や考え方を元に校種を越えて熱心に議論されていました。

小学校では、具体の中で体験等をもとに理解を深め、抽象へつなげる指導、中学校では、その学びを受け、より抽象としての「数学の言葉」である数式等を通して理解を一般化していく指導等々、互いが互いの違いを感じながら、その特徴を知り、また自分たちの指導を見直すという深い学びが進められたように思います。

4時間の半日講座もあっという間に時間がたったように感じる充実した研修となりました。

算数・数学の講座は、次回3回目最終回です。今回は、下記のとおり、小学校算数科の授業を公開していただき、授業を通して、学びを深めていきたいと考えています。次回の講座にも是非たくさんの御参加をお待ちしています。



### 教科大好きプロジェクト第3回「算数・数学実践講座」御案内

第3回 3学期実施予定

内容 ・課題提起 ・小学校からの授業改善提案（小学校6年生算数公開授業 授業者：協力員 塩見圭亮教諭（殿田小学校））  
・授業をもとにした講義、演習等